

～めざそう 災害に強い土岐川・庄内川～

平成24年12月17日  
国土交通省中部地方整備局  
庄内川河川事務所

名古屋市 瀬古学区が

## 「まるごとまちごとハザードマップ」になります

名古屋市では、浸水の範囲や水深などの情報を表示した洪水・内水ハザードマップを作成し、各戸配布を実施しています。

今回、名古屋市守山区瀬古学区（新守山地区町内会）をモデル地区として、浸水深や避難所等洪水に関する情報を洪水関連標識として生活空間である「まちなか」に表示する「まるごとまちごとハザードマップ」を国土交通省庄内川河川事務所、名古屋市と地域が連携して進めていきます。（標識例【別添】を参照）

このことにより、日常時には洪水への意識を高め、洪水時には、安全かつスムーズな避難行動につながることを期待できます。

なお、標識の設置式を下記のとおり実施します。

- 日時 平成24年12月20日（木） 13時30分～14時00分
- 場所 名古屋市守山区新守山1107番地  
ハセガワ製作所前（瀬古学区防災安心まちづくり委員会長宅）  
【実施地域】  
守山区瀬古学区新守山地区町内会  
水防災に係る標識：5箇所  
水害時一時避難建物：3建物
- 参加予定者 瀬古学区防災安心まちづくり委員会長、新守山連合会長、事業所関係者  
名古屋市消防局防災・危機管理監、庄内川河川事務所長 等
- 配布先 中部地方整備局記者クラブ

## 【問い合わせ先】

庄内川河川事務所 副所長 鈴木 正典  
調査・品質確保課 課長 臼田 文昭  
電話 (052) 914-6713 (直通)  
FAX (052) 914-6947

※名古屋市では、地域、建物の関係者と覚書を結び、浸水時に逃げ遅れた人が緊急に避難できる「水害時一時避難建物」を今回あわせて指定します。

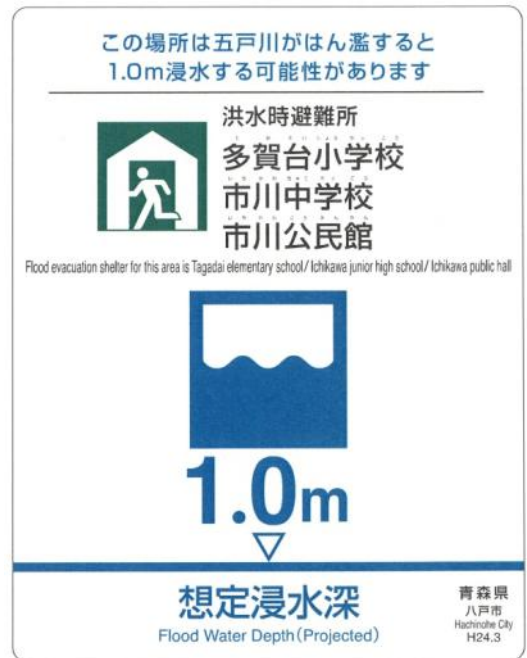


浸水深を記入するシールを作成、配布し各家庭の玄関などに貼付することにより、自宅でも日頃から浸水への意思をもてるようにする。(実寸は名刺サイズ)



水防災に係る標識を生活空間である「まちなか」に表示することにより、現在地と避難所等が明確となり水害時には適切な避難行動につなげる。(実寸はA3大)

## まるごとまちごとハザードマップの実施事例



青森県八戸市の例（八戸市HPより引用）



新潟県三条市の例（三条市HPより引用）

まるごとまちごとハザードマップは、浸水深や避難所等洪水に関する情報を洪水関連施設として生活空間である「まちなか」に表示することにより、日常時には洪水への意識を高めるとともに浸水深・避難所等の知識の普及を図り、発災時には安全かつスムーズな避難行動に繋げ、洪水による被害を最小限にとどめることを目的としています。

## 【提供情報と図記号】

洪水関連標識の設置により、「洪水」(浸水深)、「避難所」および「堤防」の3種類の情報を標示します。それぞれの情報については、次のとおり全国で統一的使用する図記号を記載します。なお、これらの図記号は平成19年1月20日のJIS日本工業規格(案内用図記号)の改正により、新たに案内用図記号として定められました(平成19年1月22日経済産業省大臣公示(官報第4506号))。



### 洪水

[図記号の意味]

河川がはん濫した状態を示す。

[図記号の目的]

当該地域が洪水の影響を受ける可能性がある地域であることを示す。



### 避難所(建物)

[図記号の意味]

災害発生時安全な避難所(建物)を示す。

[図記号の目的]

災害時の避難先となる安全な建物を示す。



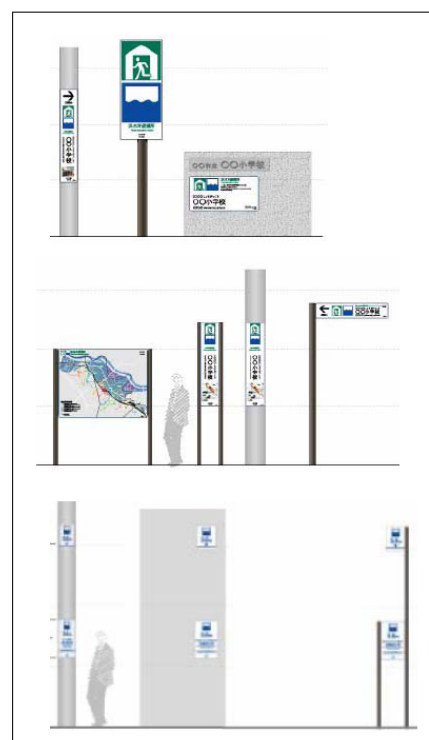
### 堤防

[図記号の意味]

居住している地域を守る堤防を示す。

[図記号の目的]

当該地域が堤防によって洪水から守られている(河川のはん濫時には、浸水する可能性がある)地域であることを示す。



設置イメージ

(図記号はJIS Z 8210)

※図記号の電子ファイルや実施手引きについては以下のURLを参照  
[http://www.river.or.jp/pict\\_flood/zukigou\\_download.htm](http://www.river.or.jp/pict_flood/zukigou_download.htm)

「まるごとまちごとハザードマップ実施の手引き」より引用